

会 長 短 信

会長 大久保 雅史

翔友の皆様方には益々ご健勝の事とお慶び申し上げます。いつも翔友会にご協力を頂き誠にありがとうございます。会長を拝命して早くも二年が過ぎようとしておりますが自分の力不足を痛感しております。

翔友会の主旨はOBOGの親睦ですが、それにつきましても体験搭乗会、忘年会、新年会が精一杯です。加えて現役を支援してやれる翔友会であるべきだと申し上げましたが、現実は厳しく、全国大会援助金、差入れ、後半に搭乗奨励金がやっとでした。

一番の悩みは翔友会の年齢層が徐々に上がってきていることで、若いOBOGの会員方のご協力を切に願います次第です。

翔友の皆様喜んでいただける企画を実行したいと考えております。OB体験搭乗会も定着してきておりますが、更に翔友の皆さんが気軽に参加し楽しんで頂ける行事を催したいと考えています。一例として福井グライダークラブのモーターグライダーを活用する催しを地区毎の開催も含め企画したいと考えております。

現役支援の話に戻りますが人・金・物の支援を監督・コーチ教官陣と相談しながら模索しておりますが、搭乗支援金なるものを設定し飛行料金の補助をしましたところ、偶々この活用で全国新人戦前に搭乗回数を増やした井上翔太君が個人優勝し、川上樹君共々団体で準優勝を成し遂げてくれました。関関同立戦は中谷バウル玲雄君 井上慧君が頑張り一点差の準優勝、しかしながら東海・関西競技会では選手不足の為に窪田倫子さんが

個人では周回得点したものの団体では得点が不足し全国大会出場は叶いませんでした。

もう少し早くこの施策を行なっていればライセンシーの増加に繋がり全国大会出場が出来たのではないかと悔やんでおります。

授業優先で土日合宿の頻度が上り搭乗の機会や効率はどうなったのか。やはり一週間の合宿で集中的に搭乗訓練した方が良いとの結果の様です。搭乗の機会があれば一発でも多く搭乗できる様に支援をして行きます。

現在のライセンシーは一名で卒業と同時に航空部のライセンシーは不在、単座機の運用が出来なくなります。早く搭乗者を育てる為にも、翔友会の皆様のご協力を是非とも願います次第です。

現在、四回生を含め20名、新年度は18名で新人の勧誘に全力を挙げ一人でも多くの一回生を入部させて復活を果たさなければなりません。翔友会の発展の為にも新入部員の勧誘に全力を尽くして部員を増やして欲しいものです。

部員全員が頑張っている様子が伝わってきます。今後も出来る限りの支援を皆様と共にしますが甘やかすことなく、主体は部員で自分達が考え工夫し、行動し、解決実現していくべきで苦勞の中にこそ達成感が生まれ自分達の”やりがい”になる事をめざして行く様にと考えています。

新幹部体制で全国大会制覇の実現に向け部員、監督・コーチ教官陣、翔友が一体と成って着実に進めて行けるよう皆様方の絶大なるご支援をお願いする次第です。

今後ともどうぞご意見ご要望を申し付けて下さいますよう宜しくお願い申し上げます。

部長 短 信

部長 山口 博司

ずいぶんとご無沙汰をして、何年もお会いできない人でも、毎年必ず年賀のご挨拶を受けます。その中に、禪の御坊様がいて、毎年念頭に教えを受けて、すがすがしい気持ちになるのと同時に、いつも何か心の芯に、ビシッとした精神を打ち込まれる。今年の賀状には、このような言葉があった。

人間は直線をつくり、
自然は曲線をつくる。

人間が悩んだり、苦しむのはな、
人間は、早よ早よとあわてすぎる、
直線ばかり好きたがる。
さあ、一息飲んで、回り道。

このような回り道は、人をひとまわり大きくするし、強くもする。ものを深く観る心も育てる。気持ちに余裕が持てれば色々なものがうまくいく。

昨年は、部の戦績もあがり、また、部員も増え上昇基調が見られます。大変、喜ばしい。新しい期待を胸に、さらなる飛躍を願うのみであります。

新年に際し、翔友皆様のご健勝、ご多幸をお祈りするとともに、今年も航空部に対し、より一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。



監督 短信

監督 森川 泰

この原稿を書いている今、妻沼では全国大会が開催されています。今年は気象条件に恵まれず、厳しい戦いになっている様ですが。さて、残念ながら今回は同志社から全国大会へチームを送り出すことが出来ませんでした。勿論、大会出場を逃がしたのは私に大きな責任が有りますし、それについては反省しております。しかし、航空部の最大の目標である全国大会に出場し、優勝を狙うのは選手自身です。クラブを運営する、操縦練習する、ソアリングに関する知識取得や練習は、各部員がもっと自主的にやるべきことです。指導者である教官らは部員の手助けを出来るだけです。最終的には教官は後ろに乗っていないのですから。

私の指導能力を棚に上げて言うつもりはありませんが、今一度、受動的ではなく、積極的なクラブへの取り組みを部員全員に強く要望します。先日、地域密着型の或るサッカークラブのサイトで指導者が一流の選手、或いは一流の人間について次の様に述べているのを見かけました。

- ・一流とは、「言われなくても自分の発想で、責任を持って行動（プレー）出来る。」
- ・二流とは、「言われたことは、責任持って行動出来る。」
- ・三流とは、「言われたことも出来ない。自分勝手に無責任に行動する。」

さて、同志社の現役部員の貴方達は何流ですか？ 体育会のクラブというのは、一流の選手を育てることを通して、一流の人間を育てる場ではないでしょうか。また逆に言えば一流の人間になることが、一流の選手になり、競技で勝利をもぎ取れるのだと思います。現役部員には一流の人間になるべく努力して欲しいし、OB、OGの皆さんには

現役部員にグライダーを通して、一流の人間とは何か、一流のパイロットとは何かを是非教えてやって頂きたいです。

最近よく使われる言葉に「有言実行」というものがあります。元々は「不言実行」ですが。有言であろうと不言であろうと、要は実行、行動することが大事です。目標を口にするかしないかは方法論であって、モチベーションを上げる為に必要なら公言すればいいだけです。一方、「思い立ったら吉日」という言葉もあります。今思ったこと、やらなければならないことを、先延ばしにせず、可能な時にすぐに行うことも大切です。失敗を恐れず、怠けず、何事にも果敢に挑戦して下さい。命の安全を冒してまではまずいですが・・・。

同志社航空部の先輩には多くの一流の人がいらっしゃると思います。今後も同志社の航空部OB、OGは流石に一流だなあ、だからパイロットとしても一流で、同志社航空部は強いなあ、と言われる様な航空部にして行きたいと思っています。